

No.619

2026.4.20

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース

60th





3 組合合同講演会開催

2月27日(金)10時より、各務原市産業文化センターにて3組合(川崎岐阜協同組合・岐阜県可児工業団地協同組合・岐阜県金属工業団地協同組合)合同講演会を開催しました。

今回は、岐阜県知事 江崎禎英様 をお招きし、「地方から創る新しい日本の形～安心と挑戦の岐阜県を目指して～」と題してご講演いただきました。かつて日本は「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と称され、“Made in Japan”の製品は高い品質と性能によって世界市場を席卷していました。しかし、なぜ日本は「失われた30年」と言われるほど成長が停滞してしまったのでしょうか。

知事のお話では、日本のものづくりが手を抜き、品質が低下したわけではなく、日本のものづくりが持つ価値を「感動」「体験」「知的好奇心」といった形で発信する力が十分ではなかったことが要因の一つではないかとのことでした。言い換えれば、日本のものづくりには今なお多くの潜在的な価値が存在しているということです。



その潜在的な価値を見出すためには、既存の視点から一歩離れ、新しい視点で物事を捉えることが重要であると述べられました。これは、ものやサービスに限らず、職場環境にも当てはまります。

昨今、人手不足は大きな社会問題となっており、仕事はあるものの人手が足りず受注を断らざるを得ない企業や、人手不足を原因とする倒産が発生するなど、深刻な状況となっています。しかし、このような問題も新しい視点で考えることで解決の糸口が見えてくる可能性があります。

これまでの考え方では、働く人が企業に合わせるのが当たり前とされてきました。しかし、企業が働く人の視点に立ち、

- ・柔軟な勤務時間(短時間労働・超短時間労働)
- ・柔軟な勤務体系(フレックスタイム制・裁量労働制)
- ・柔軟な就労形態(リモートワーク)

など、働きやすい環境を整えることで、労働力の確保と生産性の向上を同時に目指すことができるのではないかとのお話がありました。実際にこうした取り組みを導入することで、売上が伸びたり、人手不足が解消された企業も出てきているとのことでした。

こうした取り組みに興味のある方は、岐阜県が推進している「働いてもらい方改革」についてぜひ調べてみてください。

最後に、岐阜県では岐阜市と羽島市を結ぶLRT(次世代型路面電車)構想が検討されているとの紹介がありました。これが実現すれば、中心市街地の活性化だけでなく、通勤・通学者や高齢者など幅広い県民にとって利便性の高い交通手段となることが期待されます。

本講演は、地域の可能性や新たな視点の重要性について改めて考える貴重な機会となりました。今後の岐阜県の取り組みと発展に期待したいと思います。

消防訓練実施

金属団地自衛消防隊による消防訓練を3月11日(水)正午より、共同駐車場南(丸嘉工業(株)北側)にある防火水槽を使って実施しました。

当日は晴天に恵まれ訓練を行うには比較的動きやすい気候の中で取り組むことができました。隊長の指揮のもと隊員同士が連携を取り、手順に沿って手際よく放水を行いました。今後も火災に備えて訓練を継続してまいります。



3月度月例会開催

3月16日(月)、組合研修センターにて月例会を開催しました。今月のテーマは、三好啓喜公認会計士事務所 公認会計士 三好 啓喜 様をお招きして『経営リスクとしてのサイバーセキュリティ ～リスクファイナンスの観点から～』について講演をしていただきました。

現在、生成AIの普及を背景として中小企業へのサイバーインシデントが増加しています。今後、生成AIがさらに発展することで、こうした被害が拡大することも懸念されています。そのためサイバーインシデントを経営リスクとして認識し、BCPの観点から対策方法を事前に把握しておくことが重要だと感じました。

また複数のサイバーインシデントの事例を解説していただき、これらが財務面での損失や機密情報の漏洩など企業活動に大きな影響を与えるビジネス上のリスクとなり得ることを学びました。



新職員紹介



この度、岐阜県金属工業団地協同組合に入社しました小川雅貴と申します。前職では運送会社で事務業務と発送管理に携わっておりました。

2児の父で、家族で毎年野球観戦を楽しんでいます。12年間野球をしていた経験もあり、今でも野球が好きです。また休日には子ども2人と公園で遊ぶことが多く、近くで楽しい遊具がある公園がありましたらぜひ教えてください。

まだ至らない点もあるかと思いますが、組合員の皆様のお力になれるよう精一杯努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



ミニ四駆 かかみがはらGP 開催

2025年12月14日に各務原市産業文化センターあすかホールにてミニ四駆レース「かかみがはらGP」が開催されました。各務原市主催でエントリークラス、オープンクラス、企業対抗レースの3クラスに分かれてレースが行われました。クラスの説明をしますとエントリークラスはお子様や初心者、オープンクラスは中級者以上で、どちらも一般参加者。企業対抗は各務原市内の製造業企業となっています。大会コンセプトとして、ミニ四駆を通じて各務原市内のものづくり企業のPR、一般参加者には製造業に興味を持ってもらおうって感じだったと思います。参加企業をエントリー No順に紹介しますと、岐阜車体工業(株)、(株)共セツ機械精工、(株)HIGUCHI、ミツワ(株)、(有)村重商店の5企業9チーム。1企業3チームまでエントリー可能なので企業数よりチーム数が多くなっています。お気付きかと思いますが、金属団地組合企業の(株)共セツ機械精工と(株)HIGUCHIの2社がエントリーしていました。

当日の天気は小雨が降ったり止んだりでしたが、会場がホール内という事もあり関係ありません。コースは全長約240mとミニ四駆の大会としてはロングコース。メインMCにハイパーダッシュ基地のクウ・リキさんと呼んだり、メディアのカメラが入ったりと市のこの大会に対する熱い情熱を感じました。

企業ブースも広く設けてあり各社工夫を凝らしたPR活動をしていました。レースの合間に企業間交流があったり、一般参加者と交流を深めたりと意義のある時間でした。

気になる結果ですが、

「企業対抗レース 第三位(株)共セツ機械精工」

「人気投票クウ・リキ賞 (株)HIGUCHI」

と少なからず金属団地企業として爪跡を残せたのではないかと思います。

「第2回かかみがはらGP」が開催されるのであればミニ四駆未経験でもエントリーされてみてはいかがでしょう？今回エントリーされた企業さんも、ほとんどがこのイベントの為にミニ四駆を始めたとのことでした。ミニ四駆を通じて得るものがあると思いますよ。

YouTube「かかみがはらGP」と検索をかければハイパーダッシュ基地から当日の大会動画が配信されています。是非見てください！

レッツ&ゴー!!





若者の人気職種「動画クリエイター」

今から6年前、補助金を申請する際に事業計画を岐阜県産経センターさんに見ていただきました。その経緯より事業可能性評価制度のチャレンジを薦めていただき、「A評定」を受けることができました。会社名と授賞式の写真が新聞に記載されてとても嬉しく思いました。

気をよくしていた時に、中小機構さんの東海4県の「ビジネスプラン発表会」登壇のお誘いがあったため、安易に受けてしまいました。

受けておきながら、今までプレゼンの経験など無く、パワポもろくに使うことが無い状況でプレゼン方法の勉強会や練習会も指導していただけたのですが、一般の方々に動力プレスの鍛圧技術の事業計画をテキストと写真だけでは伝えることが非常に困難であることに気づいて、どうしようと悩んでいました。

動画やアニメーションがあればいいのだが、と考えていた時に「そういえば知り合いに動画作家の若者がいるから相談してみよう」と思いつき連絡を取ってみました。快く引き受けてもらい、打ち合わせが進むにつれて彼らがとんでもなく実力あるクリエイターのチームであることに気づいていったのでした。そのメンバーの一人が柴田カメラマンでした。

20年程前の昔の話ですが、私が金属団地内で和太鼓の練習をしていた頃、とある高校生の子が和太鼓チームを探してやってきました。その彼は、とんでもなく上手な和太鼓演奏者で、聞けば中学の頃プロ演奏家として海外でも演奏経験があった子であり大人の対応ができるともしっかりとした子だったのです。しかし間も無く、高校を卒業するころ将来カメラマンになると言って東京に旅立っていきました。

その後、十数年ぶりに岐阜でもカメラマンとして活動しているとのうわさを聞き、連絡を取ったのがまさに柴田カメラマンです。

すぐさまプレゼン動画制作のチームを組んでもらい、打ち合わせを行ったのですが、スマホやタブレット端末を数台並べ替え遠隔会議で進められたのです。今ではコロナ禍で当たり前になったZoom会議ではありますが、6年前の彼らの華やかな職業や若さを眩しくも憧れるような、そんな気分で動画制作の経験をさせて頂きました。全体の構成は矢口監督に提案していただいたのですが、矢口監督曰く

「プレゼンは初めの30秒が面白くなかったら、誰も聴いてくれませんよ・・・プロポーザル入札のプレゼン動画で電通のような凄い会社が動画制作すると、どんなに素晴らしい事業内容でも勝てない」と色々勉強させてもらい、気がつけば私が自ら演技する案となり、慣れない演技もすることとなっていったのでした。

出来上がった動画は各支援機関様にも高く評価して頂き、とても分かりやすく面白いバトル動画として仕上げてくれました。矢口監督曰く、

「失礼な言い方かも知れませんが、こんな使いやすい会社社長は初めて(笑)」

その後彼らは、全国ロードショー級の映画を作って、更に成長していったのです・・・

Tsudatsun



青年部親睦旅行

令和8年3月13日から15日にかけて、金属団地青年部の親睦旅行として宮城県仙台市を訪れました。本旅行は青年部の恒例行事であり、昨年は広島県を訪問しています。ここ数年は西日本方面が続いたため、今年は東日本方面を検討し、東北・仙台が行き先として選ばれました。

■ 初日



中部国際空港に12時40分集合。参加者は時間に余裕をもって集まり、出発前から自然と会話が生まれ、穏やかながらも胸の高鳴りを感じる出発となりました。

13時40分発の便で仙台空港へ向かい、約1時間のフライトはあっという間に感じられました。到着後は仙台空港鉄道で仙台駅へ移動。2両編成の列車で約40分の乗車でしたが、キャリーケースを持った旅行者で想像以上の混雑。都内の通勤ラッシュを思わせるほど。

皆それぞれの車両に分かれて乗り込み、地方都市という印象とのギャップに驚きました。

仙台駅到着後、ホテルにチェックインしひと息ついた後、夕食会場へ向かいました。夕食では仙台ならではの新鮮な海の幸を楽しみ、普段はゆっくり話す機会の少ないメンバー同士の交流も深めることができました。初日は移動が中心でしたが、大きなトラブルもなく全員が無事に仙台に到着し、順調な滑り出しとなりました。



■ 2日目

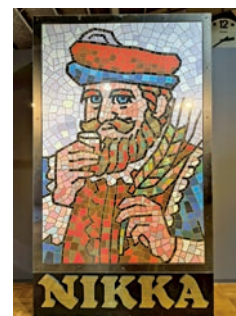
午前中はフリータイムとして仙台朝市や周辺を散策し、午後からニッカ宮城峡蒸留所見学組と松島・震災遺構見学組にそれぞれ分かれました。



【ニッカ宮城峡蒸留所見学】

仙台駅から電車で移動し、最寄り駅の作並駅からは送迎バスで蒸留所に向かいました。緑に囲まれ清流に恵まれた自然の中にある施設です。事前予約しておいたガイドツアーでは、ウイスキーがどのように作られているのかを一から丁寧に説明していただきました。原料の仕込みから発酵、蒸留、そして長い時間をかけた熟成まで、どの工程にも手間とこだわりが詰まっており、「いいものを作るには時間がかかる」という当たり前のことを改めて実感しました。普段の仕事にも通じる部分が多く、参加者それぞれに気づきがあったように思います。

見学の最後にはお楽しみの試飲もあり、それぞれのウイスキーの香りや味の違いを体験しました。つつい会話も弾み、気づけば少し飲みすぎてしまった人もちらほら…。それも含めて、楽しい思い出になりました。



【松島・震災遺構組】

松島組はまず松島海岸へ向かい、地元の新鮮な海の幸を使ったお寿司を昼食としていただき、美しい景観とともに松島らしさを満喫しました。

その後、国宝・瑞巖寺を見学しました。ちょうど結婚式が執り行われており、厳かな雰囲気と伊達家の歴史を同時に感じる貴重な場面に立ち会うことができ、観光地としての賑わいの中にも、長い歴史が息づいていることを実感しました。



続いて観光船「仁王丸コース」に乗船し、約50分かけて松島の島々を巡りました。島の成り立ちや名前の由来に耳を傾けながら景観を楽しみ、自然と歴史が織りなす松島の魅力を改めて感じることができました。



その後は震災遺構として保存されている荒浜小学校を訪問。津波による甚大な被害を受けた当時の状況を目の当たりにし、災害の恐ろしさを改めて認識しました。また、地域の方々が互いに助け合い、救出されるまで耐え抜いた背景には、人と人とのつながりがあったことを学びました。この経験を通じて、日頃の備えやコミュニケーションの大切さを自社の安全活動にも活かしていきたいと強く感じました。



夕食は仙台市国分町の「五臓六腑」にて、名物の牛タンしゃぶしゃぶや厳選された黒毛和牛の焼き肉をいただきました。階段や壁面にはプロ野球選手のサインが球団ごとでズラリと並びお店の人気をうかがえます。どの料理も美味しく満足度が高かった一方で、数名が焼き肉の脂で胃が悲鳴を上げる場面もありました。そんな中、1頭からわずかししか取れない希少部位「山あわび」を注文しました。センマイのような外観に対して、中は淡白な肉質で特徴的な一品でしたが、最年少の横山君が焼いているものと勘違い、生のまま口にしてしまい、顔が一瞬固まり、畜産特有の香りに困惑する様子は、昨年の生牡蠣の食あたり事件を彷彿させるエピソードとなりました。



3日目

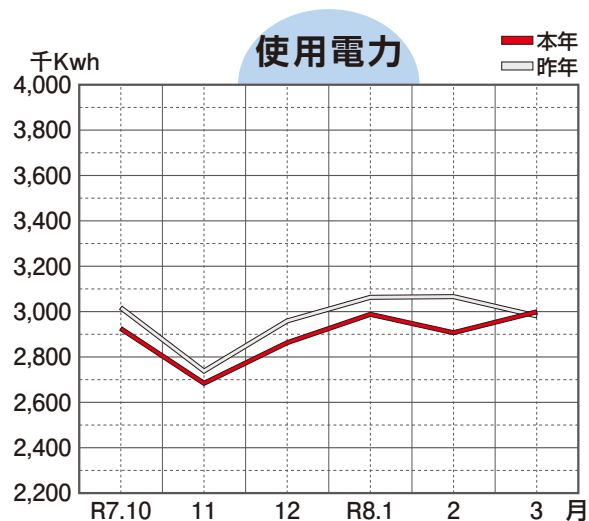
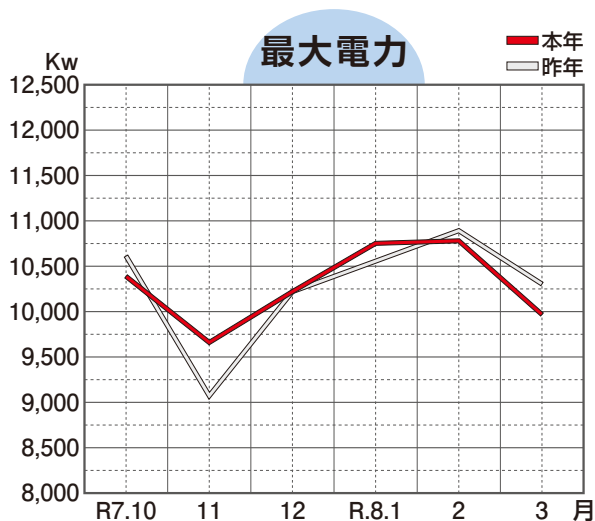
最終日は塩釜水産物仲卸市場を訪れ、各自で海鮮ランチを楽しみました。市場の活気と新鮮さを体感し、宮城の食文化をより深く味わうことができました。最後は仙台駅や仙台空港でお土産を購入し、無事に帰路につきました。



今回の旅行を通じて、地域の歴史や文化、震災の教訓に触れることで多角的な学びを得ることができました。また、メンバー同士の交流も深まり、有意義な三日間となりました。これらの経験を今後の業務や安全活動に活かし、より良い職場づくりに努めていきたいと感じています。



令和8年3月分電力使用状況



待機電力

「待機電力」とは、家電製品を使っていないときにも、通電していることで少しずつ消費されていく電力のこと。

待機電力についての調査結果「一般財団法人省エネルギーセンター調べ」によると最近の家電製品は性能の進化とともに待機電力の省エネ化も進んでいるから機器によっては、こまめにコンセントプラグを抜いても、あまり省エネ効果が得られないこともある。古い家電製品ほど待機時消費電力量が多くなりがちなので、省エネでも気をつけるべき。報告書によると、待機電力は家庭の電気使用量の約5%を占めているらしい。1世帯あたりの全消費電力量を1年間で4,432kWhとすると、そのうちの待機時消費電力量は228kWh。電気料金6,200円。待機電力だけで、こんなに電力が消費されている。家庭にある機器のなかでも待機時消費電力量の多いものは…ガス瞬間湯沸器7.05W、ガス給湯器風呂釜6.65W等。ここで気をつけたいのが、コンセントプラグを抜くと機器の機能を維持できないものも多いということ。待機電力の省エネといえば、コンセントプラグを抜く以外にも ●**主電源をオフにする** ●**節電タップを使用する** という方法がある。

例えば年間228kWhの待機電力を消費している家庭の場合、使わない時に家電製品の主電源をオフにするだけで、待機電力は184kWhになり、およそ20%の削減効果が期待される。さらにプラグをコンセントから抜く、もしくはスイッチつきの節電タップを使うことでオフにしても差し支えない機器を非通電状態にした場合、待機電力は116kWhになり、最大およそ50%の削減効果がある。

「コンセントプラグを抜いてはいけない」家電製品の代表的なもの

- ◆デスクトップパソコン 【理由】内蔵電池の消耗が早くなったり時計がずれて起動できなくなる可能性がある
- ◆ガス給湯器 【理由】凍結予防ヒーターを稼働させ、機器などの凍結を予防するため
- ◆石油温水機器 【理由】待機電力を使って石油の気化と凍結防止を維持しているため。使わないときは主電源オフ、または省エネモードをうまく利用。
- ◆モデム・ルーター 【理由】常に電源が入った状態で使う仕様のため。
- ◆冷暖房兼用エアコン 【理由】空気をあたためるために必要な「冷媒」という物質が使われているため使っていないときにも冷媒を均等に循環させるためのヒーターが動いている。毎日使う夏・冬はコンセントプラグを抜かず、設定温度を抑える方が省エネには効果的。

無意味なコンセントプラグの抜き挿しがないように、それぞれの取扱説明書をよく読んで注意しながら待機電力削減に取り組んでほしい。

行事予定

2026 **4** April

16 木	
17 金	
18 土	研修センター定期清掃 『組合休日』
19 日	『組合休日』
20 月	月例会 役員会
21 火	
22 水	
23 木	第1回選挙管理委員会
24 金	
25 土	青年部懇親会&卒業式 団地G 『組合休日』
26 日	
27 月	
28 火	編集委員会
29 水	『組合休日』 『昭和の日』
30 木	

2026 **5** May

1 金		
2 土		
3 日	『組合休日』 『憲法記念日』	
4 月	『組合休日』 『みどりの日』	
5 火	『組合休日』 『こどもの日』	
6 水	『組合休日』 『振替休日』	
7 木		
8 金		
9 土	『組合休日』	
10 日		
11 月	環境委員会 (11:00~) 労務委員会 (12:00~)	
12 火	業務委員会 (11:00~) 総務委員会 (12:00~)	
13 水	財務委員会 (12:00~)	
14 木	監査 (10:00~)	
15 金	役員会 (12:00~)	

■ 5月の行事予定

- 5月18日 月 第2回選挙管理委員会 (※予定)
- 5月28日 木 通常総会・懇親会
- 5月30日 土 総会記念ゴルフ



G-MECCA

Gifu Metal Engineering Community Cooperative Association

<http://www.g-mecca.jp>

